

2023

# スチュワードシップ・ レポート

Stewardship Report



# 目次



---

## 1.0

### インベスコの スチュワードシップ手法

顧客中心主義と運用チーム主導

---

## 2.0

### グローバル・ プラットフォーム

ケイパビリティ／運用力を支えるプラットフォーム

---

## 3.0

### アクティブ・ スチュワードシップ

資本のスチュワードとしての自らの権利と責任を行使

---

## 4.0

### プロダクト・レンジ

顧客ニーズの充足を求めて

---

## 5.0

### 業界活動

より良い対話を促進

1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動



# 1.0

## インベスコの スチュワードシップ手法

顧客中心主義と運用チーム主導



1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

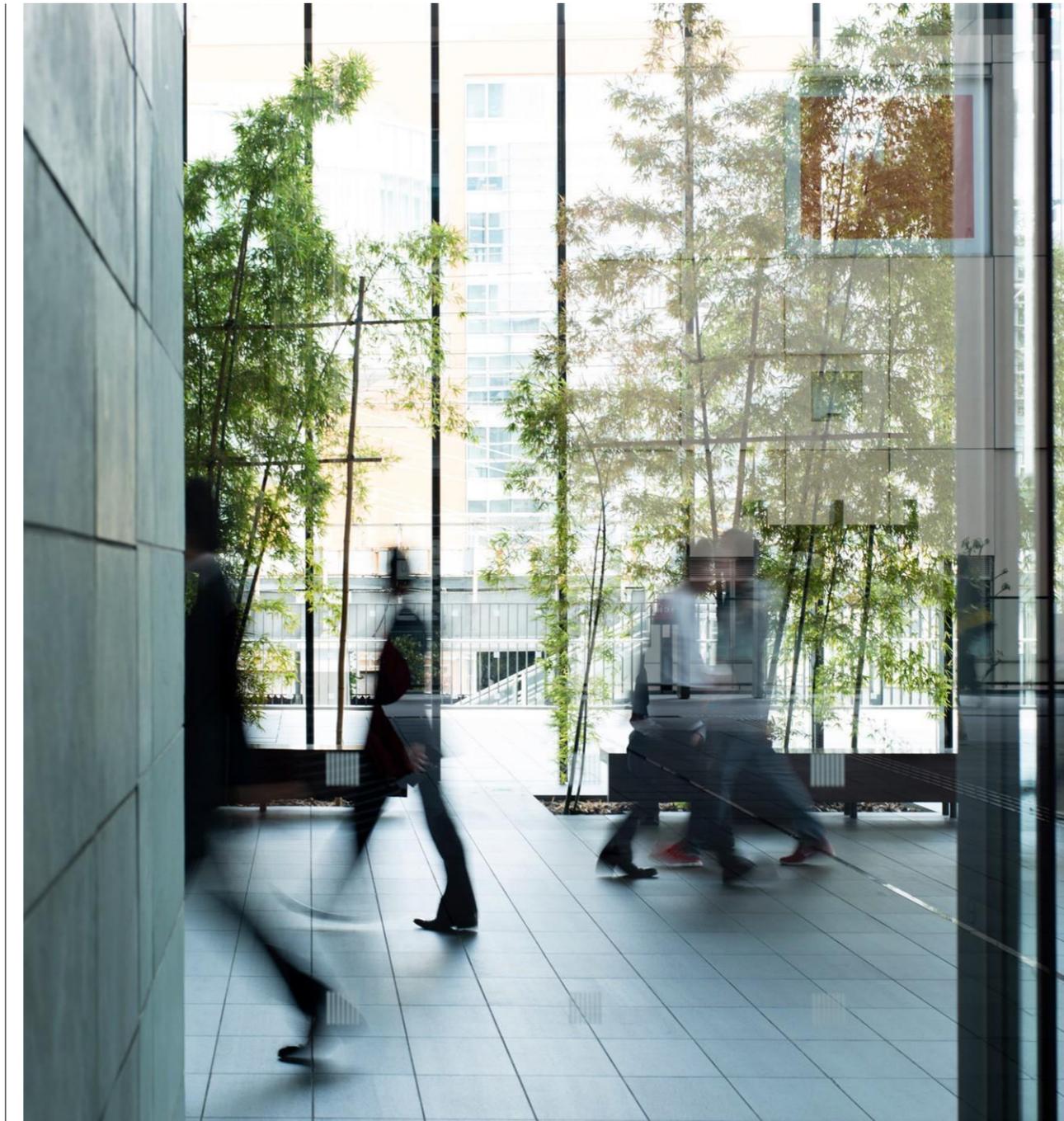
5.0  
業界活動



インベスコは、持続的なパートナーシップを構築し、お客様のためにより良い成果を生み出す能力を提供することで、持続可能な利益ある成長を目指しています。

インベスコのスチュワードシップに対するアプローチは、単に資産を運用するだけではありません。お客様の資産の責任ある後見人となり、お客様の望む成果を達成するために戦略的な意思決定を行い、お客様のために長期的な価値を創造します。そのため、お客様の資産をよりよく管理するために、アクティブ・エンゲージメント、継続的な学習、商品の進化に取り組んでいます。

このスチュワードシップ・レポートでは、2023年における当社の実績を紹介し、グローバル・スチュワードシップに対する当社のコミットメントを再確認するとともに、当社の取り組みがこの基本的使命をどのように強化するものであるかを説明します。私たちインベスコは、お客様に対する受託者責任を常に念頭に置きながら、スチュワードシップを最優先するという約束を堅持し、この道を歩み続けます。



1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動





インベスコでは、サステナブル投資において、環境・社会・ガバナンス（ESG）投資のパートナーとしてお客様に選ばれることを目指しています。多くのお客様にとって、長期的な価値創造と効果的なリスク軽減は、投資目標を達成するための基本であり、スチュワードシップへのコミットメントは、最も顧客本位の資産運用会社となることを目指す当社にとって重要な要素となっています。ESGの考慮はスチュワードシップ活動の一部であり、当社のESG手法は顧客中心主義かつ運用チーム主導で成り立っています。また、当社の手法の中核には、この分野における活動を指導、支援、情報提供する専門のグローバルESGチームがあります。



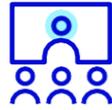
### ESGインテグレーション

持続可能な価値創造と効果的リスク低減にフォーカスする

私たちは、適切な場合には、財務上重要な考慮事項を投資ケイパビリティに統合し、顧客に強力な成果をもたらすのに役立つと考える重要な要素を考慮します。

グローバル株式、社債、ソブリン債券、不動産、マルチアセット戦略への投資家として、当社は資産クラスや地域間の違いを認識しています。資産クラスや戦略、お客様のご要望に応じて、様々な方法でESG原則を適用しています。

当社のグローバルESGチームはサポートと分析を提供する一方、投資マネジャーはポートフォリオの決定に関する裁量を持ちます。



### アクティブ・オーナーシップ

資本のスチュワードとしての私たちの権利と責任を行使する

私たちは、資本のスチュワードとしての権利と責任を行使します。私たちは、建設的な方法で発行体と対話し、私たちの専門知識を駆使して、お客様の最善の利益のために議決権を行使します。



### イノベーションとデータ

当社のケイパビリティをサポート

我々は、ESG要素に関する質の高いデータを持つことが、効果的な投資分析に不可欠であると考えています。当社は、ESGintel、PROXYintel、ESGCentralを含む当社独自のツールを構築・更新することで、ESGデータと分析能力を強化しています。これらのツールはリサーチ、ポートフォリオレビュー、ポートフォリオ最適化、エンゲージメント、委任状投票などを支援します。

詳細は10、11ページをご参照ください。



### 顧客とのパートナーシップ

お客様のいる場所で期待に応える

インベスコは、顧客のニーズや目的に合わせてソリューションをカスタマイズすることに重点を置いた、顧客中心主義のESGアプローチを採用しています。インベスコは、お客様が投資を通じてご自身の価値観を表現できるよう、ESGに焦点を当てた様々なケイパビリティを提供しています。お客様の中には、ポートフォリオにESG投資のガイドラインや制限を課すよう求める方もいます。独自のESG目標を追求したいESG志向のお客様には、一連のポートフォリオ・ソリューションを提供しています。



### 業界活動

より良いESG対話の促進

インベスコは、金融市場の継続的な機能向上を促進するため、業界イニシアチブに参加しています。責任投資原則（PRI）、ネット・ゼロ・アセット・マネージャー・イニシアチブ（NZAM）、グローバル不動産サステナビリティ・ベンチマーク（GRESB）、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）など、多くの業界団体に参加しています。また、当社はESG規制について政策立案者に働きかけも行います。更に、ケンブリッジ大学や清華大学と学術提携を結んでいます。

1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動



# 2.0

## グローバル・ プラットフォーム

ケイパビリティ／運用力を支える  
プラットフォーム



1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動





インベスコのチームは、お客様の資産の効果的なスチュワードシップをサポートしています。当社のガバナンス・プロセスは、複数のワーキング・グループの形成と分離を通じて適応的に機能することで、常に変化するスチュワードシップの優先事項に当社はフォーカスすることができます。



1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動



インベスコは、市場全体及びシステミック・リスクを考慮する包括的なアプローチをとっています。当社のリスク管理フレームワークは、これらのリスクを効果的に特定、評価、監視、管理するように設計されています。

ケース・スタディー

香港とシンガポールでの環境  
および気候リスク管理

環境と気候による投資リスクに対処する全体的なアプローチを持つことは、当社が顧客中心の資産運用にコミットする上で不可欠です。香港とシンガポールでは、資産運用会社の環境・気候リスク管理に関する規制の整備が進んでいます。Invesco Hong Kong Limited及びInvesco Asset Management Singapore Ltd では、以下を含む環境リスク管理ポリシーを有しています：

- **ガバナンス：** 企業レベルでの環境や気候関連リスクに関するシニア・マネジメントや経営者による監督。
- **運用戦略：** リスクが重大な場合、運用プロセスに環境リスク、中でも気候リスクを統合する。
- **リスク管理：** テクノロジー・ツールやデータに支えられたリスク・モニタリングやポートフォリオ・レビュー、エスカレーションを含む、網羅的リスク管理フレームワーク。
- **ディスクロージャー：** 環境や気候リスク管理に関する当社の手法に関する透明性とレポートイング。

当社のリスク管理フレームワーク

私たちは、ビジネスの変化や顧客の期待に対応できるよう、リスク管理活動を継続的に強化・進化させることにコミットしています。私たちは、困難な市場環境と大きな事業変化を乗り越えて経営能力を発揮する上で、重要な要素として統合的かつグローバルなリスク管理手法を考えています。このリスク管理の枠組みにより、私たちが認識している市場全体のリスクを考慮した上で、私たちの運用を適切に調整することが可能になります。

エグゼクティブ・マネジメント・チームは、リスク管理は全員の責任であるという企業文化の確立とその意識を醸成する責任を負っています。そのため、経営陣は取締役会の監督を受けながら、エンタープライズ・リスク管理フレームワーク（ERMF）を確立・維持し、リスク管理を日々の意思決定や戦略立案プロセスに確実に組み込む責任を負っています。

当社のERMFは、戦略・ガバナンス、投資、顧客、人材、オペレーション、財務など、事業の全領域における主要リスクにフォーカスし、インベスコ全体で一貫性のある有意義なリスク対話を可能にしています。

英国では、インベスコのERMFの執行監督に関する主要な責任はEMEAリスク管理委員会（EMEA RMC）にあり、必要に応じて法人リスク委員会が設置されています。これらの委員会は、該当するERMF事項に関し、直接事業体の取締役会に報告します。さらに、地域、事業部門、特定のリスク管理委員会というネットワークが、リスクの継続的な特定、評価、管理、監視を行い、事業の様々な領域に存在する、又は新たに発生するリスクを広範かつ深く多層的にカバーしています。コントロール機能（エンタープライズ・リスク、コンプライアンス、内部監査）が、インベスコのリスクと管理を監督、監視、保証する責任を負います。



1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動





インベスコは、効果的なスチュワードシップ活動に関する監督と説明責任を果たすために必要と考えられるガバナンス構造とリソースを持ちます。

1. インベスコの運用拠点におけるリーダーは、社内プログラムに関する戦略とガバナンスを主管しています。彼らは、インベスコの専門的な運用チームを監督しつつ、グローバルな専門知識、サポートおよび接続性をバランスよく提供します。それにより、運用拠点におけるリーダーは、長期的により一貫性をもって、お客様により良い結果を提供することができます。
2. 当社のグローバルESGチーム及びプロキシ&ガバナンス・チームは、インベスコ全体のESGケイパビリティのベスト・プラクティスを推進するためのセンター・オブ・エクセレンスとして機能します。クライアント、リサーチ、アナリティクス、オペレーション、プロキシという5つのチームで構成されます。北米、アジア太平洋、欧州・中東・アフリカの3地域に配置されたグローバルESGチームがサポートと分析を提供し、各運用チームはポートフォリオ決定に関する裁量を維持します。
3. ESG運営委員会は、当社の運用拠点におけるリーダーが指名した代表者その他のグループの代表者で構成され、特に法務、マーケティング、コンプライアンスなどに関するESG投資関連の問題にフォーカスしています。ESGインテグレーション手法は各運用チームごとに決定します。このグループにより、世界中の運用チーム間でESGに関する協働が可能になります。例えば、2023年、ESGリサーチ・データ委員会は、EUの持続可能な金融情報開示規則（SFDR）の要求事項を満たすため、PAI（主たる悪影響）を考慮するアプローチの導入をサポートしました。
4. グローバル・インベスコ・プロキシ・アドバイザー委員会（Global IPAC）は、世界中の様々な運用チームの代表者で構成される運用部門主導の委員会で、議決権行使・ガバナンス担当ディレクターが委員長を務めています。インベスコのグローバルESGチーム・ヘッドやインベスコの法務、コンプライアンス、リスク、政府関連部門の代表者もグローバルIPACの会議に参加することがあります。グローバルIPACは議決権行使プロセスを監督し、インベスコのグローバル議決権行使ポリシーと議決権行使に関する社内ガイドラインを設定する責任を負います。
5. プロキシ&ガバナンス・チームは、グローバルな議決権行使ポリシーを強化するためにグローバルIPACに報告したり、ガバナンスと議決権行使のリサーチに関する運用チームのサポートに重点を置きながら、運用チームが議決権行使の意思決定に関する完全な裁量を維持できるように、グローバルに専門的なリソースを提供しています。このチームはまた、議決権行使オペレーションや議決権行使ポリシーとプロセスを実行し、データ分析、クライアント・レポーティングを推進しています。2023年末現在、チーム全体は11名で構成されています。議決権行使機能は10年以上にわたって設置されています。
6. ETF議決権行使スチュワードシップ委員会（ETFポートフォリオ・マネジメントやプロダクト・マネジメント、議決権行使&ガバナンス、オペレーション、法務、ESG及びコンプライアンスを含む様々なチームの多種多様な社内関係者で構成）は、グローバルIPACの小委員会です。この委員会は、インベスコ・キャピタル・マネジメントLLCが運用する上場投資信託の議決権行使を監督する責任を負っています。

大規模でグローバルな資産運用会社として、インベスコは、当社のガバナンス体制がスチュワードシップのグローバルで一貫した基準を維持しつつ、多様な考え方の恩恵を受けることを可能にしていると考えています。当社の運用チームは、独自のESGプロセスを管理していますが、グローバルESGチームのリソースを活用し、ESGエグゼクティブ運営委員会を通じて、必要に応じてESG問題をエスカレーションすることができます。ESGエグゼクティブ運営委員会を通じて、必要に応じてESG問題をエスカレーションできます。このような体制により、当社の専門的な運用チームは、顧客の利益のために、それぞれの資産クラスや投資スタイルに関連したESG手法を実行する能力を持つことができます。

1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動

1 出所: インベスコ、2023年12月時点。インベスコのガバナンスや構造に関する説明は、2023年度を反映している。



インベスコでは、ESG要素に関する質の高いデータを持つことは、ESG分野におけるスチュワードシップの取り組みをサポートする効果的な投資分析に不可欠だと考えています。2023年には、ESGintel、PROXYintel、ESGCentralといった当社独自のツールを構築・更新し、ESGデータと分析能力の強化を継続しました。ESGデータは急速なペースで進化を続けていますが、一方で、業界はデータの比較可能性やカバレッジといった課題にも直面しています。

**ESGintel**

2020年にローンチしたESGintelは、当社独自のESGリサーチと格付けプラットフォームで、企業やソブリン発行体の主要なESG項目に関する洞察をさまざまな指標やデータポイントを通じて提供しています。

このツールによりESGの運用プロセスは以下の点で強化されます。

- ESG要素が持つ投資へのインプリケーションを明らかにする。
- ESGエンゲージメントの記録を保存する。
- 発行体のESGリスク特性のモニタリングを続ける。

**ESGintel Corporate Ratings**

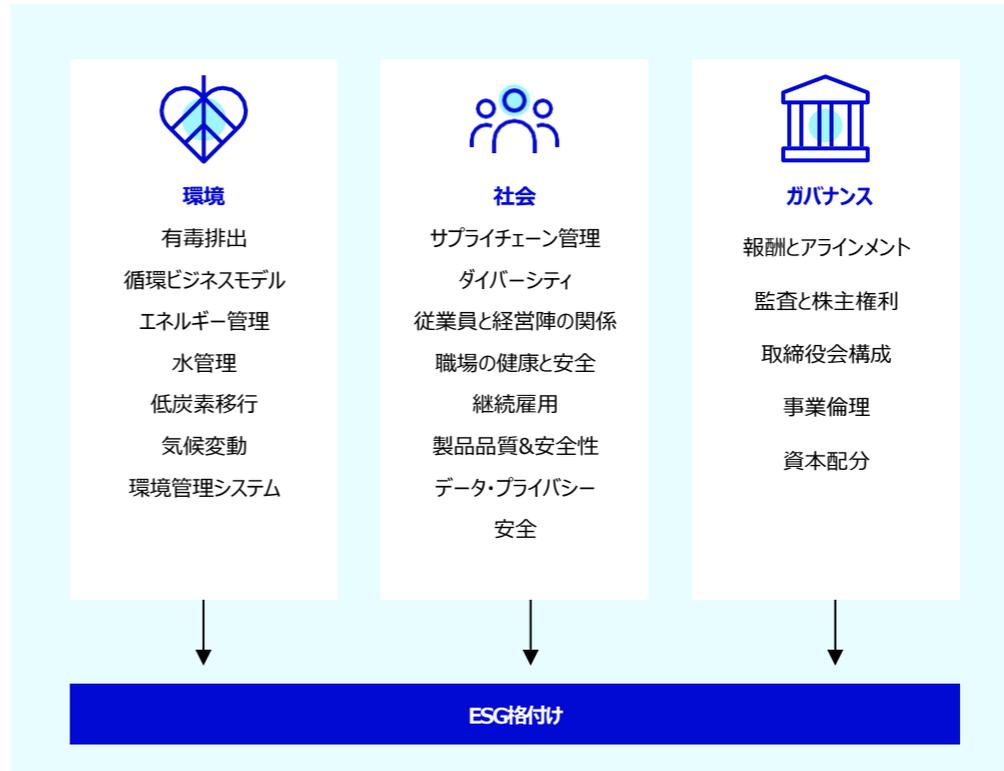
ESGintelは、インベスコが社内で開発した手法に基づく企業のESG格付け、格付けのトレンドやモメンタム情報、企業レベルの基礎データへのアクセスをユーザーに提供します。セクターとサブセクターのマテリアリティ・レンズがフレームワーク内で適用され、企業が事業活動に従って最も関連性の高いESGトピックについて評価されることを保証します。事業活動に応じて、最も関連性の高いESGトピックで評価されるようになります。様々な基礎指標がトピック・レベルの評価に反映され、各主要分野における総合的な視点を提供します。トピックレベルの評価は、環境、社会、ガバナンスのテーマ別評価と、インプット、オペレーション、アウトプットのバリューチェーン評価に集約されます。バリューチェーン評価は、企業のESGパフォーマンスについて異なる視点を提供し、生産プロセスやサプライチェーンの様々な段階における持続可能性要因を評価する。ESG総合評価もテーマ別評価を用いて計算されます。

ESGintelの格付けは、全体、テーマ、バリューチェーン、トピック、指標の各レベルで1～5段階評価となっています。計算方法は、絶対的パフォーマンス、セクター/サブセクター内相対的パフォーマンス、地域相対パフォーマンスのいずれかに基づき、指標ごとに指定されています。ESG企業格付けは、入手可能な最新情報を反映するため、毎週更新されます。格付けに加え、サブ・インダストリーや国レベルでの企業ランキングも提供されます。ESGintelプラットフォームには分析機能が組み込まれており、企業とユーザーが選択した同業他社との一定時点での比較や過去比較が可能です。

ESGintelは全ての発行体をカバーしているわけではありません。現在、約15,000社がESG総合評価を作成するための最低限のカバー基準を満たしています。さらに、このツールは機械学習アルゴリズムを活用し、類似した特性を持つ企業のデータ観察に基づき、企業の欠損データ箇所を補います。ESGintelの透明性の高いインターフェイスは、そのような近似値が使用されている箇所をハイライトし、基礎となるインプットのアナリストによる精査を可能にしています。

**ESGintel Sovereign Ratings**

運用チームからのフィードバックに応え、インベスコはESGintelを企業格付けだけでなく、ソブリン債を含む他の資産クラスにも拡大しました。ESGintelソブリンは20以上のインプットにより、環境、社会、ガバナンスの各カテゴリーにおける各国のスコアを生成し、総合ESGスコアに集約することができます。ESGintelソブリンは、内部格付け、格付け傾向、160カ国中からの世界ランキングを提供します。ESGintelのソブリン格付けは毎月更新されます。



1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動





インベスコ独自のツールには、継続的な改善を促すためのフィードバック・プロセスが組み込まれており、情報ソース、データ、メソドロジーに関する課題や見解、要望に関するユーザーのフィードバックを収集しています。当社のESGデータとポートフォリオ分析能力を向上させることは、インベスコがますます複雑化する世界のサステナブル・ファイナンス規制環境に遅れを取らないための不可欠なものです。

**ESGCentral**

ESGIntelは主に発行体レベルのリサーチツールとして利用されていますが、ESGCentralはESGポートフォリオ分析とESGスクリーニングを含むプラットフォームです。

ESGCentralは40以上のESGデータソースを取り込み、52,000以上の企業やESGデータ指標をカバーし、インベスコのESGポートフォリオやベンチマークと統合することで、総合的なポートフォリオレベルのESG分析機能を提供します。このプラットフォームのデータを活用したESGインサイトは、ポートフォリオ内のESGの機会とリスクを浮き彫りにします。このツールにより、ユーザーはポートフォリオをネガティブスクリーン、ネットゼロ、SFDR第8条、サステナブル/レスポンシブル、その他のESGフレームワークでポートフォリオを分析することができます。

これらの機能を通じて、このプラットフォームは、ESGコンプライアンス、リスク管理、ESGレポーティング、SFDRやTCFDなどの規制イニシアティブ対応をサポートします。その結果、ESGCentralはインベスコのESGアプローチに明確な差別化を提供しています。

**FocusIntel**

**エンゲージメントの優先順位付け**

ESGIntelのリサーチとデータポイントを利用して、ESGリサーチチームは、インベスコの全保有銘柄の中でESGリスクが最も高い発行体のリストであるFocusIntelを管理しています。発行体は、ESGレポーティング、不祥事スコア、ガバナンス・データ、事業関与、国連グローバル・コンパクト（UNGC）の遵守状況など、多くのESG基準に基づき、高／中／低のESGリスクに分類されます。

**ケース・スタディー  
ESGIntelによるインテグレーションの強化**

ESGIntelはインベスコ独自のESGレポーティングとリサーチのプラットフォームで、運用プロセスにおけるESGインテグレーションを強化するために運用チームが利用しています。この一例として、ファンダメンタル・エクイティ・チームがESGIntelを利用して、財務的に重要なサステナビリティ・リスクを評価しています。ESGIntelのESGの各指標のレーティングが、1が最高、5が最低の1～5のレーティングシステムのうち、4または5の場合、運用チームはこれらの指標が投資決定プロセスにどのように織り込まれたかを文書化しています。

新たな投資アイデアの場合、その企業がCEOと取締役会長の役割を分離しているかどうかなど、指標の重要性を考慮し、潜在的なリスク（セクターや地域の規範の状況による）が投資で期待されるリターンを上回るかどうかを判断することが考えられます。ESGIntelのもう一つの活用例としては、運用チームが既存投資先の継続的なモニタリングの一環として、指標スコアが4や5に変化した場合、投資先企業との対話が必要かどうかを文書化します。

1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動

	ESGIntel	ESGCentral	FocusIntel	PROXYIntel
ツールの説明	第三者によるESGデータとマテリアリティに関するインベスコの見解を統合するリサーチ・ツール	運用チームがポートフォリオレベルで網羅的／カスタム化されたESG分析を行うためのESGプラットフォーム	インベスコが保有する全銘柄のうちESGリスクが最も高い発行体のリスト	グローバルでの議決権行使とその合理性に関してインベスコ全体で知見を共有するプラットフォーム
分析の範囲	発行体レベル・データ	ポートフォリオレベル／発行体レベル	発行体レベル・データ	発行体レベル・データ
アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> <li>5段階ESG格付け</li> <li>E、S、Gスコア</li> <li>ピア比較と過去比較</li> <li>エンゲージメントの記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオ・レベルの分析、モニタリング、スクリーニング</li> <li>ESGレポーティング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESGリスクが最も高い企業のリスト</li> <li>発行体が高ESGリスクと考えられるのかについての明快な指標</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行使された議決権</li> <li>行使の合理的説明</li> </ul>
運用チームによる主な利用方法	ESGリスクを投資意思決定に統合する運用プロセスにおいて、企業のESG特性を調査	ポートフォリオをESGに特化して分析し、40以上のESGデータ・ソースを使用してベンチマークと比較したESGの機会とリスクを分析する。ネット・ゼロやSFDR第8条、サステナブル／レスポンシブル等、様々なESGスクリーニングも可能。	グローバルESGチームと連携して、銘柄が高リスク特性かどうかを特定し、グローバルESGチームと調整してエンゲージメントする。	議決権行使の意思決定をサポートし、インベスコの他の運用チームがどのように行使したのか、またその理由等も共有される。



インベスコでは、お客様の利益となるようケイパビリティの拡充に努めています。

2023年、インベスコは独自ツールの拡充により、インベスコの調査・分析能力を強化しました。例えばPlanetrics社の気候シナリオとITR分析を当社のESGCentralプラットフォームの気候指標に取り入れました。これらのツールを統合することで、気候変動に関連する潜在的なリスクと機会をよりの確に評価することができるようになり、より多くの情報に基づいた投資判断を行うことができます。これは、経営資源を規律正しく管理し、顧客、株主、投資家の成功のために投資することへの当社のコミットメントの一環です。



### サービス・プロバイダーの利用

インベスコは、ESG格付けプロバイダー、プロキシ・リサーチ、事業関与スクリーニング、カーボン・データなど、当社のスチュワードシップ活動をサポートするために外部のサービス・プロバイダーを利用しています。これらのサービス・プロバイダーからのデータは、インベスコ独自のツールに供給され、社内のESGリサーチと分析をサポートし、運用チームが情報に基づいた意思決定を行えるようにしています。例えば、インベスコの企業・ソブリン向けESGリサーチ・プラットフォームであるESGintelは、ブルームバーグ、ファクトセット、ISS、CDP、サステナリティクス、SBTi、トランスペアレンシー・インターナショナルの腐敗認識指数、Transition Pathway Initiative、World Governance Indicators、Child Rights Benchmarkなどの外部リサーチ・プロバイダーのESGデータを活用しています。

その後、データの入手可能性と質に問題がない限り、ESGintelは企業の事業特性に応じて財務的に重要なESGトピックについて評価されるよう、ESGトピックに関するデータにマテリアリティの分析を適応しています。この例では、外部サービスプロバイダー<sup>1</sup>は、インベスコのリサーチと分析プロセスを強化するために、ESG情報を補完する追加的な情報源として利用されています。

<sup>1</sup>各セクターのマテリアリティを決定するため、SASBのフレームワークを活用しています。これにより、そのセクター内の企業の財務パフォーマンスや経営効率に最も影響を与えるESG課題を特定し、フォーカスすることができます。

### 当社のESGリサーチ・プロバイダーやツール、テクノロジー

#### ESGリサーチ・プロバイダー

Sustainalytics	MSCI	Bloomberg	ISS
Sell-side Research	SG Analytics	Clarity AI	
Vigeo Eiris	Equileap	Just Capital	
Morningstar	Nikko Research Center	FAIRR	
Net Zero Tracker	Proxy Insight	Carbon Disclosure Project	
Carbon Underground 200	Transparency International	Transition Pathway Initiative (TPI)	
Science Based Targets Initiative	Climate Bonds Initiative	International Energy Agency	
UN Human Development Index	Worldwide Governance Indicators (WGI)	Sustainable Development Goals (SDG) index	
Environmental Performance Index	Child Rights Benchmark		

#### 議決権調査及び議決権行使推奨

Glass Lewis	ISS	IVIS (UK Equities)
-------------	-----	--------------------

#### 当社独自ツール

ESGintel	FocusIntel	ESGCentral	PROXYintel
----------	------------	------------	------------

出所：インベスコ、2024年2月時点。例示目的。ISS: Institutional Shareholder Services. FAIRR: Farm Animal Investment Risk & Return. IVIS: Institutional Voting Information Service



1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動





## インベスコ・アジア（除く日本）株式運用チームのESGフレームワーク

インベスコ・アジア（除く日本）株式運用チームは、アジア各地に複数の拠点をもち、世界中のお客様に代わって中国およびアジアの株式に投資する幅広い投資商品を運用しています。その戦略は、長期的に持続可能なリターンをもたらすアルファの機会を活用することを目指します。運用プロセスは、ESGスクリーニング、ESGインテグレーション、アクティブ・オーナーシップに沿ったものです。ESG関連の投資分析は、ファンダメンタルズ・リサーチや企業との対話、ポートフォリオ・モニタリングの不可欠な一部と位置付けられています。そのため、ESG要素の評価は、投資リスク全体を検討するうえで必要となります。ファンドマネジャーとリサーチアナリストは、その知識と経験に基づき、ESGに関する見解の形成において完全な裁量権を持ちます。クライアントの目的に応じ、ここでは以下の事項が考慮されます：

- **ESGスクリーニング**：インベスコの除外フレームワークに整合的なネガティブ・スクリーニング\*
- **ESGインテグレートド・リサーチとポートフォリオ構築**：外部情報源から入手した情報とインベスコ独自の格付けフレームワークESGIntelを活用し、ESGインパクトに関するチームの見解を反映した5段階のリスク格付けを行います。運用チームはバリュエーション規律に強くフォーカスしており、ポートフォリオ構築の意思決定のためにフェアバリューを見積もっています。ポートフォリオ・マネジャーやリサーチ・アナリストは、ESGの観点から、フェアバリューやトゥルーバリューを調整すべきかどうかを明示することが義務付けられています。
- **アクティブ・オーナーシップ**：企業経営陣へのエンゲージメントと議決権行使は、資産価値を管理・保護・向上させる上で基本的な役割を果たします。運用チームはその責任を果たすにあたり、様々な要因を考慮し、各ポートフォリオ企業の持続可能な価値創造に注力しています。エンゲージメント・プロセスの中で、投資先企業は将来の価値に潜在的な影響を与える可能性のあるESG問題について問われることがあります。

ESGスクリーニング	ESGインテグレートド・リサーチ	ポートフォリオ構築
<p><b>ネガティブ・スクリーニング</b>：インベスコ・グループのネガティブ・スクリーニング基準*に従う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>独自リサーチ</b>：運用チームが独自のESGリサーチを行い5段階評価を行う。</li> <li>• <b>ESGIntelにおける外部評価</b>：ESGIntelの情報を、独立した第三者のリサーチや格付けレポートとクロスチェックしたうえで分析（例：Sustainalytics, Bloomberg broker researches）</li> <li>• <b>フェアバリューの決定</b>：ESG要素を考慮したうえで、投資を増加するか減少するために、必要に応じてフェアバリューを調整する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リード・マネジャーはポートフォリオ構築及び最終的にはファンドのパフォーマンスに責任を負う。</li> <li>• リード・マネジャーは、投資のために選定された銘柄のクオリティとESGについてフォーカスする。</li> <li>• こうした手法で構築されたポートフォリオは、過去1アルコールやタバコ、大麻の製造やアダルト・エンターテインメントやカジノ、非人道的武器の製造等に関連する銘柄を含まなかった。</li> </ul>

アクティブ・エンゲージメントと議決権行使
<ul style="list-style-type: none"> <li>• アナリストが懸案事項について投資先企業の経営陣と対話する。</li> <li>• エンゲージメントが投資先企業のESG要素を改善する機会となり、顧客の利益につながる。</li> <li>• 運用チームは、インベスコのグローバル・コーポレート・ガバナンスと議決権行使に関するポリシーステートメントを採用する<sup>2</sup>。当該ポリシーは顧客の最善の利益のために議決権が行使されることを求める。意思決定は、ファンド・マネジャーが裁量権を持つ。</li> </ul>

出所：インベスコ。2024年6月時点。

\* インベスコ・グループのネガティブ・スクリーニングが適用される場合

1 10年以上の表示可能なトラック・レコードのある複数のポートフォリオ

2 規制上の理由により、台湾やオンショア銘柄については例外が適用される可能性がある。

ポートフォリオ・マネジャーはESG要素を考慮しつつ、それらに制限されるものではなく、多様なESG特性において柔軟性を発揮することができる。ESG要素を吟味した情報は、完全なものではなく、正確でなく、すぐに利用可能な形ではないかもしれない。ESG要素は投資や発行体によって多様であり、すべてのESG要素が特定され、評価されるとは限らない。ESGを考慮することが戦略のパフォーマンスに追加される保証はない。

1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動



# 3.0

## アクティブ・ スチュワードシップ

資本のスチュワードとしての  
自らの権利と責任を行使



1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動



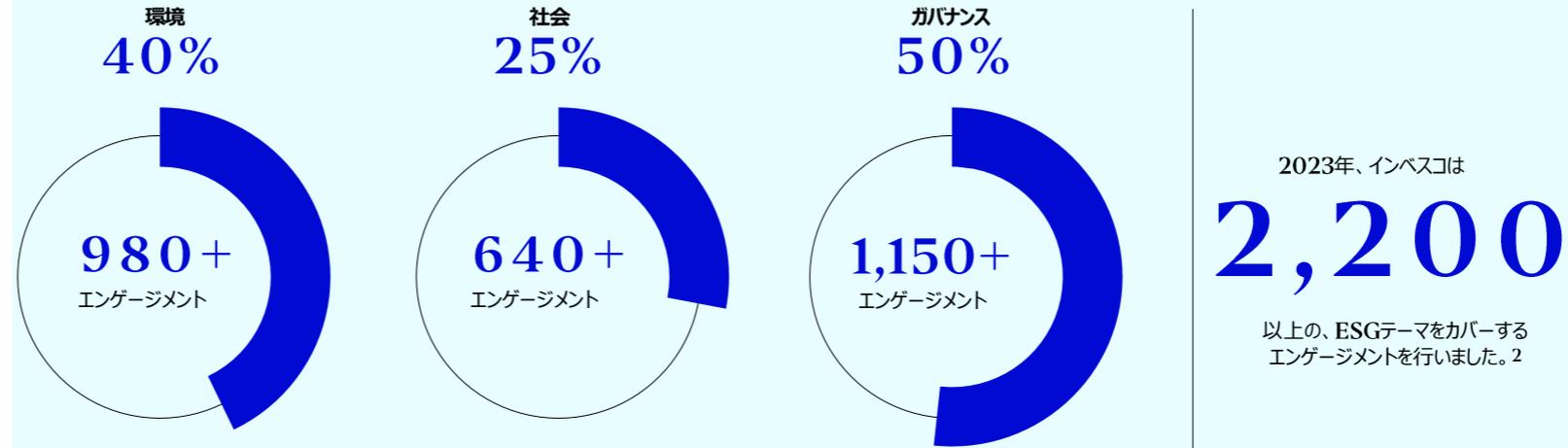


エンゲージメント／対話は運用プロセスの中核です。インベスコは、アクティブ・オーナーとして、また良きスチュワードとして、発行体とのエンゲージメントを、顧客の利益のために、長期的で持続可能な価値創造を促進するための強力かつ効果的な手段と考えています。

インベスコは、エンゲージメントの力を信じています。私たちは、発行体と積極的に関わり、長期的で持続可能な価値創造を促します。このアプローチは、お客様に利益をもたらすだけでなく、金融市場の健全化にも貢献します。私たちは、アクティブ・オーナーで良きスチュワードであることを約束し、対話はまさに私たちの運用プロセスの中核をなすものです。

財務上重要なESGリスクを有する発行体に対しては、エンゲージメントにESG事項に関する対話を含むことがあります。ESGに関するエンゲージメントとは、ESGに関する事項について、発行体と直接対話したり、情報提供を要請したりすることです。

### ESGテーマをカバーするインベスコのエンゲージメント比率<sup>1</sup>



<sup>1</sup> インベスコは、ESGテーマに関して1つの発行体と複数回関わることもあり、また対話が複数のテーマに及ぶことが多いため、パーセンテージの合計は100%になりません。数値は四捨五入しています。これらのパーセンテージは、運用チームおよび/またはグローバルESGチームによる文書化によって算出されました。  
<sup>2</sup> グローバルESGチームは、独自の記録と運用チームの記録の両方を併用して、この数値を毎年算出している。

1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動



議決権行使に関する当社のアプローチは、お客様に対する受託者責任に根ざしています。インベスコは、投資先企業の長期的な価値創造を促進する優れたコーポレート・ガバナンスの実践を支援することで、お客様の利益と投資目的に最も資すると考えられる議決権行使の決定を行うよう努めます。

インベスコは、グローバル・コーポレート・ガバナンス & 議決権行使に関するポリシー・ステートメント（グローバル議決権行使ポリシーまたはポリシー）を設定しました。グローバル議決権行使ポリシーの年次の見直しプロセスでは、ポートフォリオ・マネジメント・チームやインベスコ内の様々な部署からの意見を考慮し、お客様の最善の利益や規制要件、各地の市場基準、ベストプラクティスを考慮します。

当社のグローバル議決権行使ポリシーと内部の議決権行使ガイドラインは、原則とルール・ベースであり、委任状に記載されるトピックを通常カバーしています。当社のポリシーと社内ガイドラインが議決権行使項目をカバーしていない限り、議決権行使の決定は、当社のグッドガバナンス原則と投資先企業から提供された情報、議決権行使サービスプロバイダーから提供された調査や提言を考慮する当社のポートフォリオマネジメントチームによるケースバイケースの分析によって行われます。当社のポートフォリオ・マネジメント・チームは、議決権行使の決定に関して完全かつ独立した裁量権を有し、利益相反がない限り、顧客の利益と投資目的に最も資すると考える方法で議決権行使を指示します。ポートフォリオ・マネジャーは、また投資アドバイザー・チームの支援を受けて議決権行使の推奨を行っています。このチームはすべての議決権行使活動に焦点を当て、議決権行使推奨に関する分析と助言を提供しています。当社は、各ポートフォリオ企業のリスクと機会を管理することは「一律」ではないこと、また、すべての問題がすべての企業にとって重要であるとは限らないことを理解しています。当社は、ポートフォリオ・マネジメント・チームが独自に議決権行使の意思決定を行う柔軟性を持つべきであると考えています。その結果、ポートフォリオ・マネジメント・チームが議決権行使に関して異なる立場を取る場合もあります。

当社では、議決権に関する調査と推奨を得るために、グローバルに2社の議決権助言会社のサービスを活用しています（特定の地域での助言サービスも活用しています）。また、Institutional Shareholder Services (ISS) を活用して、報告や記録サービスを含む議決権行使のアドミンストレーションやオペレーションをサポートしています。例えば、当社の年次ポリシーレビュープロセスの一環として、議決権シーズン後に当社のポートフォリオ・マネジメント・チームが見直しを必要とする新たなトレンドや問題について、ISSが注意喚起することがあります。当社の議決権行使代理人として、ISSは、当社が議決権行使義務を負う保有証券についてモニターし、議決権資料を含む株主総会に関する情報提供や、各株主総会の議決権行使可能ポジションに関する電子投票用紙の受領をしています。当社のポートフォリオ・マネジメント・チームは、投資アドバイザー・チームのサポートを受けながら、議決権やそのリサーチ、投票勧告にアクセスし、当社独自の議決権行使プラットフォームを使用して投票決定を実行しています。

インベスコは、議決権行使の権限を付与されている場合、すべての議決権を行使することを目指しています。2023年、インベスコは12,780の株主総会で議決権を行使しましたが、これは議決権行使可能な総会の98.9%に相当します。例えば、株式のブロッキングと呼ばれる一時的な売買制限が行われている場合や、議決権行使の制限、その他の市場または業務上の制限が存在する場合があります。これらの事項は関連するポートフォリオ・マネジャーの裁量に委ねられています。本報告期間中、私たちは議案の約92%について経営陣を支持しました。

### Global Invesco Proxy Advisory Committee (Global IPAC)

インベスコのグローバルIPACは、運用チームが議決権を管理すべきであるという当社の哲学に基づき、世界中の様々な運用チームの代表者で構成される運用チーム主導の委員会です。議決権・ガバナンス担当ディレクターが議長を務めます。インベスコの法務、コンプライアンス、リスク、ESG、政府関連部門の代表者もグローバルIPACの会議に参加することがあります。この委員会は、グローバル議決権行使ポリシーと社内議決権行使ガイドラインを毎年見直し、何らかの変更を加えるべきかを検討する責任を負っています。グローバルIPACは、インベスコの主な議決権および議決権行使のトレンドを監視、理解、議論し、インベスコが規制上の義務を果たすことを支援し、当社のグッドガバナンス原則に沿わない議決権を見直し、議決権行使プロセスにおける利益相反を検討するためのフォーラムを運用チームに提供しています。

### Investment Advisory Team

英国で運用されるファンドを管理するポートフォリオ・マネジャーは、投資アドバイザー・チームのサポートを受けながら議決権を行使します。同チームは、議決権行使に関する調査（外部および内部の両方）を行い、定時および臨時株主総会の決議に関する分析と助言を提供する専門チームです。ポートフォリオ・マネジャーは、投資アドバイザー・チームと協働して、すべての議決権行使について最終的な決定を下し、投資アドバイザー・チームに議決権行使の指示をします。投資アドバイザー・チームは、毎月議決権行使報告書を各ファンドに提供し、その報告書には、反対票を投じた決議案やその根拠が詳細に記載されています。投資アドバイザー・チームは、議決権行使分析と議決権行使推奨に加え、適切な場合には、定時／臨時総会決議に関する企業とのエンゲージメントを行います。

## 2023 Overview



出所：インベスコ、Institutional Shareholder Services (ISS)。2023年1月から12月までを反映。



1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動





## 2023 グローバルの議決権行使統計

### 2023年当社がどのように議決権を行使したか (%)

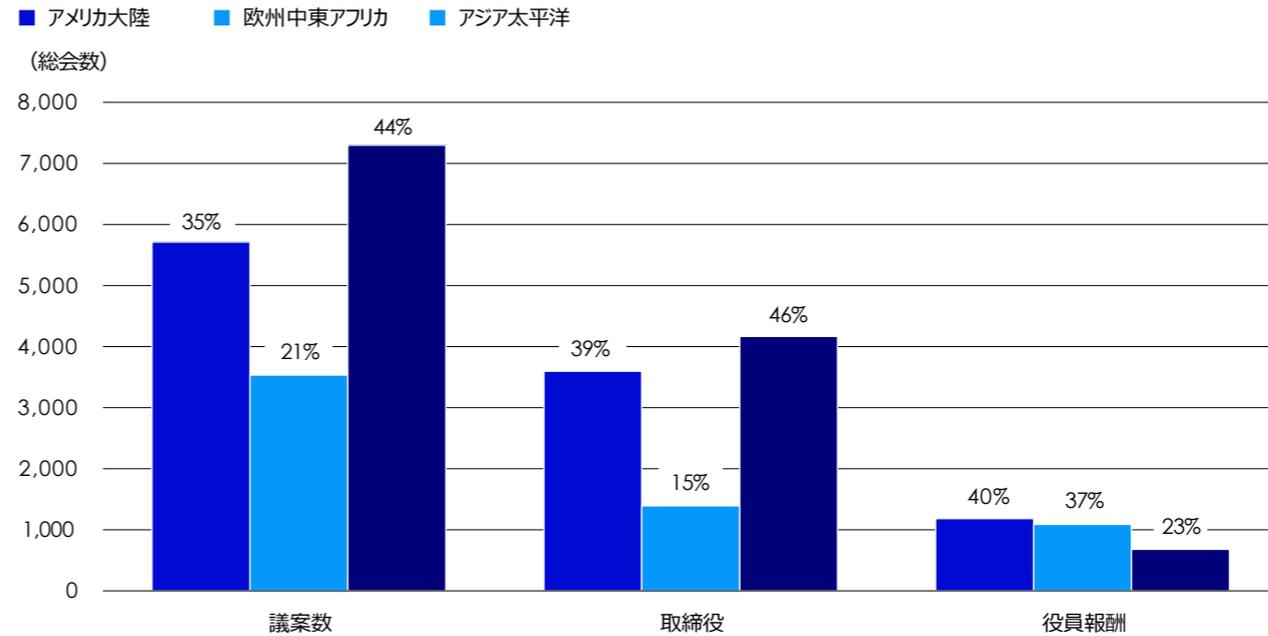


■ 会社提案に賛成 <sup>1</sup>	91.97
■ 会社提案に反対 <sup>2</sup>	8.03

### 主要市場における議決権行使した総会数

地域	企業数	総会数	議案数	会社提案に最低でも1票反対した総会数
アジア太平洋 (除く日本)	2,385	4,610	32,537	2,346
日本	1,133	1,160	12,578	749
欧州中東アフリカ (除く英国)	1,681	2,071	31,150	1,279
英国	404	473	7,837	142
アメリカ大陸 (除く米国)	884	1,203	11,697	707
米国	3,132	3,263	29,231	2,245
合計	9,619	12,780	125,030	7,468

### 会社提案に最低1票は反対した総会の比率(%)と数<sup>2</sup>



出所：インベスコ、Institutional Shareholder Services (ISS)。2023年1月1日から12月31日まで。

1 会社提案に賛成した比率  
2 会社提案に反対した比率

1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動





### ケース・スタディー：A社



英国の一般消費財サービス業



取り上げられたESG課題  
ガバナンス



エンゲージメント手法  
オンライン会議／議決権行使

**課題**

役員報酬と取締役会の構成

**アクション**

2023年、当社UKインベストメント・アドバイザー・チーム及びインベストメント・チームは、役員報酬についてA社と対話を持った。

2022年、当社を含む株主との協議後に新たな報酬ポリシーが承認されたものの32%の反対投票もあった。これは主にLTIP（長期インセンティブ・プラン：Long-Term Incentive Plan）における最大報酬機会が引き上げられたためだった。

更に、COOとCFOの役割を含む役員陣の変更後の取締役会の構成に関するガバナンス上の懸念も挙げられた。この変更により重大な懸念が発生しているかどうかを理解するために取締役会の構成に関するレビューが行われた。

**アウトカム**

対話後、A社はLTIP機会を引き上げないことに同意し、またレビューの結果、特に取締役会の構成に関する重大な懸念はなかった。

この決定を受け、当社は、A社の役員報酬ポリシーと変更による影響のあった取締役の再選に賛成した。

**次のステップ**

当社は、A社の報酬供与をモニタリングし、適切なPay-for-performanceを確保できているかどうか取締役会と対話をする。

出所：インベスコ。例示目的

### ケース・スタディー：B社



英国の一般消費財サービス業



取り上げられたESG課題  
環境



エンゲージメント手法  
オンライン会議、議決権行使

**課題**

サステナブル調達、サプライチェーンにおける労働環境、循環経済イニシアチブ

**アクション**

2023年、当社はB社と、サステナブルな調達やサプライチェーンにおける労働環境、循環経済イニシアチブに関する対話を持った。これらの課題は、英国における大手ファッション小売業であるB社にとって重要だった。同社は、世界中から衣類や靴、家庭用品を調達しているため、材料調達や製造、使用后廃棄において重大なサステナビリティ課題を抱えていた。

対話を通じて、B社がサステナブル調達、サプライチェーン監査、循環経済プロジェクトに関して高くコミットメントしていることが判明した。大規模な社内スタッフがサプライヤー工場を常時監視し、9ヶ月ごとに各拠点を訪問していた。この監視レベルは業界の慣行を上回っており、B社がESGリスクを軽減する能力に自信を持つことができた。

出所：インベスコ。例示目的

1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動





### ケース・スタディー：C社



環境設備サービス業



取り上げられたESG課題  
報酬と取締役会の構成



エンゲージメント手法  
オンライン会議

#### 課題

C社では、CEOの給与と報酬総額が同業他社と比較していずれも中央値を上回っていることに懸念が示された。さらに、取締役会の構成やCEOの後継者計画についても懸念が指摘された。

#### アクション

2023年1月、会長や上級独立社外取締役およびIR担当との電話会議が開催された。対話では、取締役会の構成、特に前CEOの後継者計画について話し合われた。C社は、現CEOがCEOの役割を引き継いだプロセスについて説明した。報酬体系についても議論され、フリー・キャッシュ・フローや総株主利益率（TSR）および投下資本利益率に重点を置くことが望ましいとされた。これらの指標により、正しい行動が促されるとの意見を表明した。

#### アウトカム

C社との対話でガバナンスに関する様々な問題について話し合った結果、報酬と会長の再選両方に賛成した。

#### 次のステップ

取締役会の構成と報酬は引き続き監視され、懸念があれば取締役会の関連メンバーに提起される。

出所：インベスコ。例示目的



1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動



# 4.0

## プロダクト・レンジ

お客様ニーズの充足を求めて



1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動





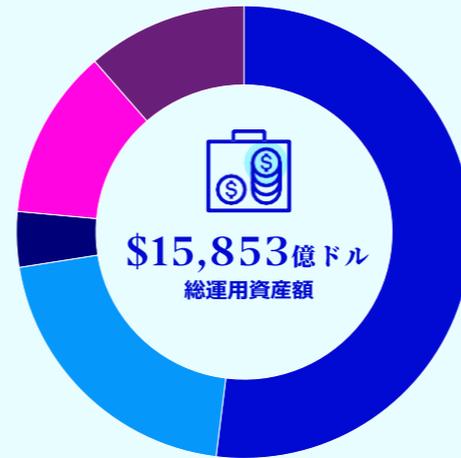
インベスコでは、お客様の多様なニーズに応えるため、幅広い投資戦略を提供しています。株式、債券、実物資産など、様々な資産クラスを運用しています。インベスコのマルチ・アセット戦略およびライアビリティ・ドリブン戦略は、機関投資家や個人投資家を問わず、投資家の皆様の金融目標の達成を支援するよう設計されています。

当社は、投資を通じてお客様の価値観を表現できるよう、さまざまなESG投資ソリューションを提供しています。当社のESGに関する専門知識は幅広く深いものであり、この分野におけるお客様の進化するニーズにお応えするため、継続的に新商品を開発しています。

当社の目標は、お客様に選ばれるESG投資のパートナーとなることです。適切な場合にはESG要素を運用プロセスに組み入れることで、投資先企業や投資先市場についてより包括的な見解をお客様に提供し、最終的にはより良い情報に基づいた投資判断ができるようになると考えています。

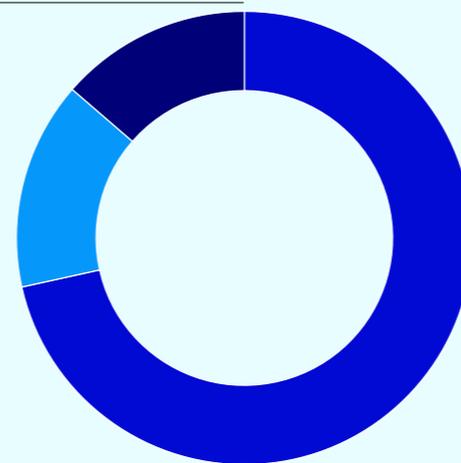
**AUMの内訳**  
(億米ドル、2023年末時点<sup>1</sup>)

<b>株式<sup>2</sup></b>	<b>8,237</b>
アクティブ	3,029
パッシブ	5,208
<b>債券<sup>2</sup></b>	<b>3,257</b>
アクティブ	2,800
パッシブ	457
<b>バランス<sup>2</sup></b>	<b>627</b>
アクティブ	618
パッシブ	9
<b>マネーマーケット<sup>2</sup></b>	<b>1,927</b>
アクティブ	1,927
<b>オルタナ<sup>2</sup></b>	<b>1,805</b>
アクティブ	1,479
パッシブ	326

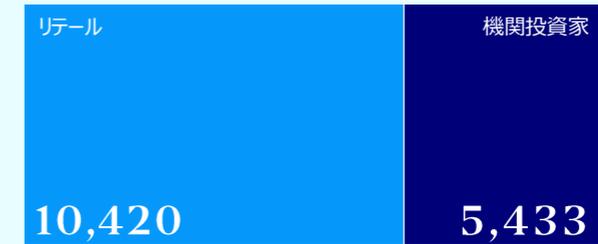


**AUMの地理的内訳**  
2023年第4四半期、顧客国籍別 (億米ドル、2023年末時点<sup>1</sup>)

<b>アメリカ大陸</b>	<b>11,339</b>
<b>アジア太平洋</b>	<b>2,355</b>
<b>欧州中東アフリカ</b>	<b>2,159</b>



**2023年第4四半期AUMの顧客ベース内訳**  
(億米ドル、2023年末時点<sup>1</sup>)



1 参考値 - 修正される可能性あり。  
2 パッシブ運用資産にはETFsやUITs、フィーの発生しないレバレッジ、為替オーバーレイ、その他のパッシブマンデーを含む。  
3 アクティブ運用資産は、総運用資産からパッシブ運用資産を減じたもの

1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動





## サステナブル・ユーロゾーン・ケイパビリティと戦略

2023年、当社はプライベート・バンクのお客様と提携し、ユーロ圏戦略を策定しました。このお客様はミス・プライスの変化を識別できる戦略とバリュー志向のサステナブル投資戦略の開発を望んでいました。当社の戦略は以下の点で差別化されていました：

### 1.

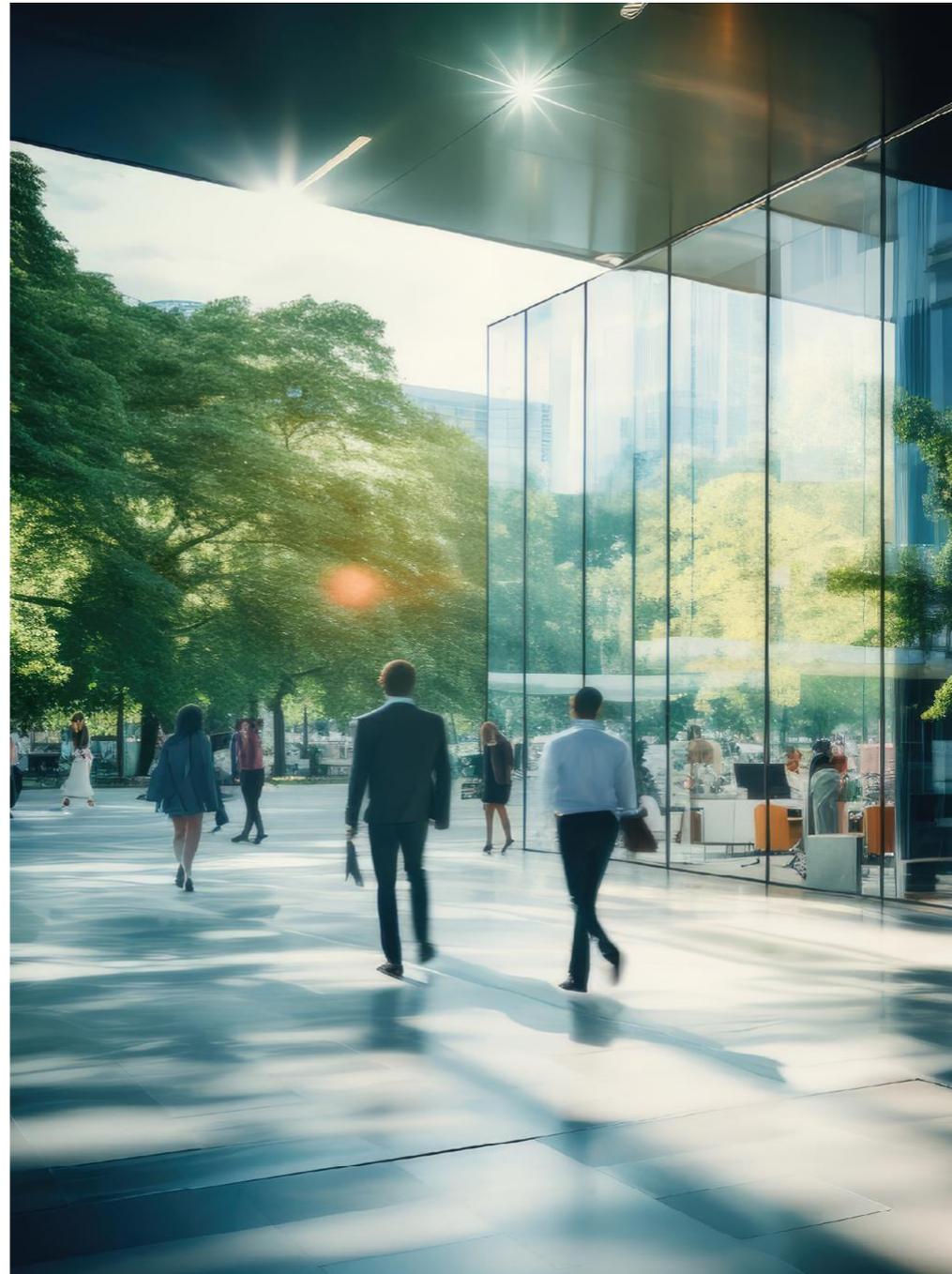
この戦略案は、強力なESGフレームワークと長期的なアルファ獲得の実績のあるパフォーマンスを組み合わせたものです。

### 2.

既存のESG戦略はクオリティ・ファクターが主流であり、また一般的な除外スクリーニングはバリュー株へのエクスポージャーが除外される傾向にあります。本戦略は、グロースやクオリティのファクターに支配されることなく、ESG考慮と分散投資という選択肢を潜在顧客に提供します。

### 3.

ESGフレームワークは、独自のものです。透明性が高く、定性的な仮定に基づくものではなく、発行企業のファンダメンタルな財務と本質的にリンクしています。



1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動



# 5.0

## 業界活動

より良い対話の促進



1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動

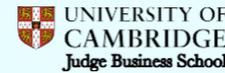


当社のグローバル・ソート・リーダーシップ・チームは、業界の実務と学術理論とのギャップを埋める極めて重要な役割を担っています。社内のチームと協力することで、実践的な専門知識に基づくだけでなく、クライアントのニーズに対応したコンテンツを提供しています。私たちは、政策、法律、規制の動向を常に把握しながら最も適切でタイムリーなアドバイスを心掛けています。

学者や他の業界実務家との提携により、当社の研究はさらに充実したものとなっています。この広範なネットワークにより、資産運用業界におけるより広範な議論に貢献し、お客様の利益につながる最高品質のリサーチをお届けすることができます。

### ケース・スタディー：ケンブリッジ・ジャッジ・ビジネス・スクールとのコラボレーション

2023年、当社とケンブリッジ・ジャッジ・ビジネス・スクール（CJBS）との長期的協力関係は6年目となりました。この協力関係を通じて、当社は長期的な資産運用、オルタナティブ・ファイナンス、データ分析における研究活動を支援しており、同時に当社のお客様は世界的に有名なビジネス・スクールの最先端の洞察と研究にアクセスできるという便益を得ています。



**30+**  
CJBSとのコラボで作成された  
ソート・リーダーシップ



気候変動リスク、サステナブル投資、ESG投資に関する数多くのイニシアティブ

**8**  
のグローバル・コンサルティング・リサーチ・プロジェクトをサポートし、

**40**  
人のMBAやMFの学生を支援



当社がスポンサーとしてケンブリッジ大学内にCentre for Alternative Financeを設立



当社の専門家は、CJBS主催の19の学術イベントや研究報告発表会に参加しています。

**9**  
CJBSによって発行された当社がスポンサーしたスタディー

CJBSから  
**65**  
人のスピーカーが参加した、グローバルで

**19**  
の地域で開催され、当社のお客様向けイベントには、

**3,800**  
+  
以上の方々に参加。

### ケース・スタディー：清華大学とのESG投資に関する提携

中国のグリーン・セクターとエネルギー移行は、中国に投資する際の重要な投資テーマです。グリーン・セクターは良質な経済成長の重要な原動力となり、新たな雇用機会や輸出増加の可能性を生み出す可能性があります。

この1年間、インベスコは清華大学PBCSFとの研究パートナーシップを継続し、電気自動車や再生可能エネルギーなど、中国のグリーンセクターにおける投資機会や、移行投資の枠組みに焦点を当ててきました。分析では、中国の投資先企業への投資機会だけでなく、中国のグリーン指数におけるより広範な市場機会も浮き彫りにしています。このパートナーシップでは、気候変動に関連するエネルギー転換の潜在的リスクと投資機会について、中国の投資先企業や業界団体との意見交換も行われました。調査結果はホワイトペーパーやソート・リーダーシップの形で発表されました。



1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動



インベスコは、業界の数多くのパートナーシップやイニシアチブに積極的に関与しています。私たちの参加レベルは様々ですが、私たちはこうした取り組みを、金融市場の継続的な強化を求めてきた過去の取り組みに立脚する旅と見なしています。これらの組織への積極的な参加は、当社が業界の発展の最前線にとどまることを可能にするだけでなく、お客様や業界全体に利益をもたらす形で、金融市場の改善や透明性の向上に貢献することを可能にします。

**当社が参加しているESGをサポートしている団体の一部。2023年時点では、以下の団体が含まれます。**

- 30% Club Japan Investors Group
- Asian Corporate Governance Association (ACGA)
- Asia Investor Group on Climate Change (AIGCC)
- Better Building Partnership (BBP)
- Bipartisan Policy Center ESG Task Force
- Carbon Disclosure Project
- Coalition for Climate-Resilient Investment (CCRI) (founding member)
- Climate Bonds Initiative
- Confluence Philanthropy (Associate Advisor Menu)
- Corporate Responsibility Interface Center (CRIC) (DACH countries)
- Council of Institutional Investors (CII) (US)
- UK FCA Disclosures and Labels Advisory Group (DLAG)
- UK Green Technical Advisory Group (GTAG)
- Farm Animal Investment Risk & Return Initiative (FAIRR)
- Global Real Estate Sustainability Benchmark (GRESB)
- EFAMA SFDR and Taxonomy Committee (Chair)
- ESG Disclosure Study Group (Japan)
- Hong Kong Green Finance Association (HKGFA)
- Investment Company Institute (ICI) (ICI Fund Disclosure Working Group, ICI Global ESG Task Force, and ICI Proxy Issues Working Group)
- Investment Association (UK)
- Investor Forum (UK)

- Institutional Investors Group on Climate Change (IIGCC), including Net Zero Investment Framework (NZIF) working group
- Italian Sustainable Forum (ItaSIF)
- Investment Management Education Alliance (IMEA)
- Irish Funds ESG Legal committee
- One Planet Asset Manager Initiative
- Quoted Companies Alliance (QCA)
- Responsible Investment Association (RIA) (Canada)
- Responsible Investment Association Australasia (RIAA)
- SASB Alliance
- Transition Pathway Initiative
- Task force on Nature-Related Financial Disclosures' (TNFD) Forum
- UK Sustainable Investment and Finance Association (UKSIF), including Board of Directors
- World Economic Forum Financing the Transition to a Net Zero Future Working Group
- Singapore Green Finance Industry Taskforce

**当社が署名する団体:**

- Principles for Responsible Investment (PRI)
- EFAMA Stewardship Code
- Indian Stewardship Code
- Japan's Stewardship Code
- UK Stewardship Code
- Net Zero Asset Managers Initiative
- Taskforce on Climate-Related Financial Disclosures (Supporter and Discloser), TCFD Consortium

### ケース・スタディー：HKGFA

インベスコは、香港におけるグリーン・ファイナンスとサステナブル投資の発展を促進する業界プラットフォームであるHKGFAのメンバーです。



インベスコは、グリーン・ディスクロージャー・ポリシー & スタンダードの開発を促進するためのサステナビリティ関連プラットフォームの共同議長であり、またコモン・グラウンド・タクソノミー・ワーキング・グループの共同リーダーとして、タクソノミーとトランジションに関する業界研究に貢献し、この地域における規制の進展についてインプットを提供しています。全体として、このプラットフォームは業界動向や規制の進展に関する見識を提供し、当社がよりサステナブルな金融市場の構築にフォーカスした業界対話に貢献する機会となっています。

### ケース・スタディー：IIGCC

インベスコは、気候変動に関する投資家の協力のための欧州組織であるIIGCCのメンバーです。



インベスコは、2023年に結成されたIIGCCのトランジション研究ワーキンググループに参加しています。このワーキンググループは、投資家が企業の移行計画の信頼性を確立するためのガイダンスを提供し、分析的アプローチを開発することを目的としています。これは、NZIFが確立した原則と一致するもので、企業が保有する原資産レベルで脱炭素化を促進することにより、現実世界の排出削減を支援することを目的としています。



1.0  
インベスコの  
スチュワードシップ  
手法

2.0  
グローバル・  
プラットフォーム

3.0  
アクティブ・  
スチュワードシップ

4.0  
プロダクト・レンジ

5.0  
業界活動



## Find out more

インベスコのESGに関する情報をさらにお求めの場合は、  
ウェブサイトをご参照ください。

<https://www.invesco.com/jp/ja/>

### ご注意事項

本書は、情報提供目的として、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社（以下、「弊社」と言います）が海外の拠点で発行されたものを翻訳して作成したものであり、法令に基づく開示書類でも特定ファンド等の勧誘資料でもありません。本書にて記載された運用戦略名は、インベスコの責任投資アプローチを説明するために例示目的として掲示するものであり、これらの戦略を推薦、勧誘をする意図はありません。本書は、信頼できる情報に基づいて作成されたものですが、その情報の確実性あるいは完結性を表明するものではありません。本書に記載されたランキング並びにレーティング等は、あくまで参考情報であり、将来の運用成果を保証するものでもなく、今後も同等のものを確保することを保証するものでもありません。本文で詳述した本書の分析は、一定の仮定に基づくものであり、その結果の確実性を表明するものではありません。分析の際の仮定は変更されることもあり、それに伴い当初の分析の結果と重要な差異が生じる可能性があります。また、本書は、エンゲージメントを説明するために、過去の一時点における投資先企業との対話事例、または評価事例を掲示いたしますが、あくまで過去の一時点における事例に過ぎず、将来も同様の事例を継続する保証はございません。当資料について事前の許可なく複製、引用、転載、転送を行うことを禁じます。

この文書は、特に断りのない限り、インベスコの専門家によって書かれています。本資料に記載されている意見は、現在の市場情勢に基づいており、他の投資家の意見とは異なる可能性があり、変更される可能性があります。本書は目論見書の一部を構成するものではありません。ランキング、格付け、または賞に対するいかなる言及も、将来のパフォーマンス結果に対する保証を提供せず、時間とともに一定ではありません。データはすべて作成時点あるいは明示した時点のもので、特に断りのない限りインベスコ社が提供しています。すべての画像は、特に断りのない限り、インベスコから入手したものです。

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社  
金融商品取引業者  
関東財務局長（金商）第 306 号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

### 投資リスク、費用について

運用にはリスクが伴い、場合によっては元本に損失が生じる可能性があります。当資料は特定の銘柄の運用助言あるいは売買推奨のために用意されたものではありません。弊社運用商品へのご投資には、各商品等に所定の手数料等（投資信託にご投資される場合には投資信託毎に設定された購入時手数料および運用管理費用等の諸経費、投資一任契約の場合は契約毎に設定される運用報酬、等）をご負担いただく場合があります。

弊社運用商品へのご投資には、各商品等に所定の手数料等（投資信託にご投資される場合には投資信託毎に設定された購入時手数料および運用管理費用等の諸経費、投資一任契約の場合は契約毎に設定される運用報酬、等）をご負担いただく場合があります。

弊社の投資信託の購入時手数料は最大3.85%（税抜3.5%）、運用管理費用は最大年率 2.123%（税込）、信託財産留保額は最大0.3%となり、この他にも、保有期間などに応じてご負担いただく費用が発生する場合があります。ファンドの費用の合計額については、保有期間などに応じて異なりますので、表示することができません。各商品へご投資された場合、各商品は価格変動を伴う有価証券に投資するため、投資リスク（株価の変動リスク、株価指数先物の価格変動リスク、公社債にかかるリスク、債券先物の価格変動リスク、コモディティにかかるリスク、信用リスク、デフォルト・リスク、流動性リスク、カントリー・リスク、為替変動リスク、中小型株式への投資リスク、デリバティブ（金融派生商品）に関するリスク等）による損失が生じるおそれがあります。ご投資の際には、当該商品等の契約締結前書面、信託約款、商品説明書、目論見書等を必ずご確認ください。投資一任契約に関しては、次の事項にご留意ください。【投資一任契約に係る報酬】投資一任契約に係る報酬などの総計は、現時点で、当戦略の報酬料率を決定していないため、表示することができません。【特定 金銭 信託の管理報酬】当該信託口座の受託銀行である信託銀行に管理報酬をお支払いいただく必要があります。具体的料率については信託銀行にご確認下さい。【組入 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料等】当該費用については、運用状況や取引量等により変動するものであり、事前に具体的な料率、金額、上限または計算方法等を示すことができません。【費用合計額】上記の費用の合計額については、運用状況などによって変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することができません。

3890863-JP

